

# 令和4年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・「いくぞ！がっこうたんけんたい」では、その場所を見るだけでなく、それぞれの場所

にいる人に話を聞いたり、質問したりすることで、学校での生活に様々な人が関わって

ることが分かった。

- ・「生きもの大すき」では、虫探しが十分にできる公園が近隣にはない中、校内でも探せばダンゴムシなどの虫を見つけることができ、お世話の仕方や生態を調べることで、生き物の気持ちを考えて触れ合ったり、観察したりすることができた。
- ・「せかいでひとつ わたしのおもちゃ」では、コロナ禍で人との交流が制限された中、タブレットで取り組みの動画を作成したり、会場に遊び方の説明を掲示したりすることで、異学年との交流を行うことができた。
- ・「大きくそだて わたしの野さい」では、栄養士と連携を図ることで、グリーンピースやとうもろこしの皮むき体験を行うことができ、野菜の旬や作り手の気持ちを理解することができた。

### (2) 課題

- ・「あきとなかよし」では、公園にある身近な自然（どんぐり等）を、町探検、自分や身近な人々、社会及び自然との関わりについて考える機会が少ない。
- ・1年生と2年生で、秋に実施される生活科見学の行き先が同じで、新たな発見を得ることが難しい。
- ・「町のすてきをつたえたい」では、お店の人にインタビューをする、お店の人に仕事の内容について教わるといった「人との関わり」をもつ機会が、コロナ禍の影響で減っている。
- ・「もうすぐ2年生」では、近隣の幼稚園、保育園を招待することができず、小学校の様子を伝えたり、1年生に2年生になることを意識させたりすることができなかった。

## 2 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

<p>・公園で見つけたドングリや落ち葉など、自然のものを 利用して、遊びや遊びに使うものを工夫して作るようにする。</p> <p>・コロナ禍で交流が制限される中で、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりする。</p> <p>・校庭の四季をビンゴなどのゲームを通して観察することで、それぞれの季節の自然の特徴や違いを見つけるようにする。</p>	<p>・ドングリや落ち葉など、自然のものを利用して遊ぶ。</p> <p>遊びに使うものを作ることで、その面白さや不思議さに気付くようにする。</p> <p>・学校探検や町探検での自分と社会との関わりに気付くことや、動植物の観察や、遊びの中で、社会科や理科の学習内容に関連していることを意識しながら指導をする。</p>	<p>・児童の興味関心を大切にしながら活動を展開し、自分たちで不思議に思ったことや、やってみたいと思ったことから課題を見付けられるようにする。</p> <p>・身近な昆虫を飼育したり、自然や動植物を感じたり触れ合う機会を多くし、自然や生き物への親しみをもてるようにする。</p> <p>・コロナ禍で交流の仕方に制限のある中で、人数の制限や、ICTの活用や、手紙やカードのやり取りなどで、すすんで交流しようとする気持ちを育てられるようにする。</p>
---	--	--